

忘れていました！ 嵐山町の水辺という視点・・・嵐山町にため池は169ありました。

ため池（沼）は、日本で古いものは古墳時代以前から、だいたいは江戸時代に水田のためにつくられたと聞きます。町史を見ると水をめぐりいろいろな闘いがあったことがわかります。そのころは生活と密着していたのがこの169もの沼です。嵐山町の田んぼは、ほとんどため池の水を使っていました。田んぼの土地改良事業が進み川の水を利用するようになり使われなくなった沼もあります。老朽化したため池もあります。周囲が住宅地として開発され、管理が難しくなった沼もあります。だから「埋め立て」の話がこのところできています。農業に使わなくなった沼を「用がなくなった」から埋め立てるというのも理解できますが、一方で安易かとも思います。ほんとうに用がなくなったのでしょうか？水田に使われなくなったため池も、洪水調整、環境 景観などを考えると・・・この小さな町に169、これだけの沼があるのは「財産」です。何らかのボランティアたちで地域の水辺としてそれらの保全など水利組合の補佐（＝労働や実作業的なこと）のようなことができないでしょうか。「沼めぐり」など観光資源などを考えられないでしょうか？水利組合の補佐の一方で「嵐山町水辺空間協議会（?）」なども考えられます。生態系を乱す外来魚をどうするか、人が親しめる景観・生態系保全、保水、防災、防水など・・・そして人々の癒しをも含めての「水辺空間」として皆で見、考えていきませんか。若者そして高齢者が喧々がくがく、発言できる場をさがしています。

武蔵嵐山病院の展示ホールに尾崎レイさんの写真「嵐山町の水辺」でため池などが紹介されています。とてもきれいです。ぜひ見にいらしてください。



- ▲ 志賀堂沼（志賀）・・・半分以上埋め立てられました。
- この沼は志賀小学校のほぼ隣、地藏堂の向側にあります。駐車場を広げたい・道がほしいという地元要望に対し、平沢土地区画整理組合の残土の埋め立て先として、都合よく折り合い、昨年3月までに半分以上埋め立てられました。
- 役場隣の駐車場を学校給食センター建設などで整備するため造成が必要です。造成残土をさらにこの沼に入れる予定。沼は江戸時代から農業に利用され、下流部の志賀2区の洪水調整の役目もしました。県道を通る人・歴代の志賀小の生徒にも愛されていました。チョウトンボという少なくなったトンボが見られました。埋めてしまっているのかな。

- 川島の鬼鎮神社のそばに天沼があります。天沼の埋め立ての要望書が提出されていました。「埋め立てて災害時の避難場所に」という要望でした。沼の周りの自動車駐車などの問題があるとは聞いています。護岸はくずれかけているところもありますが、沼の周囲は舗装されてなく、多くの方が舗装されていない道の散歩・釣を楽しんでいます。桜の季節、水面に桜が映り親しまれています。
- ▼天沼（川島）・・・埋め立てないで！考えてください。



- ▲ 深谷沼（広野2区）・・・親水公園として整備します。
- 沼の周りに住宅が建設され、広野文化村ができました。下流域の水田は、土地改良区がパイプラインを通して沼の水を利用しています。沼の周囲の道路を自動車が通行するため、道路の陥没・護岸が崩れてきました。広野2区と土地改良区が話し合い、整備します。農業利用の沼と憩いの場です。

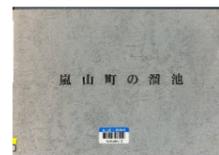
ため池・どんな役割があると思いますか。

- ① 農業用水に使う。
食糧難になった時、水不足でため池がなければ、田畑での食糧生産は難しくなります。
- ② 雨水の洪水調節機能がある。
大型住宅団地の山の開発では必ず調整池を作ります。山を開発すると雨水保水力が低下するので雨水を貯水します。なくなると、大雨・ゲリラ洪水時、下流に影響があります。
- ③ 水生・水辺生物（魚・貝・トンボ・ヤゴ・アメンボなど）の生活空間として不可欠です。
- ④ 人々の憩いの場・散歩・釣などの遊び場です。

嵐山町では山の保全の考えが進んできました。 水辺の保全を、これから考えていきましょう。



▲志賀堂沼にみられた「チョウトンボ」嵐山町博物誌第1巻「嵐山町の動物」より



図書館に西山光燐さんの監修した写真集「嵐山町の溜池」があります